

「根拠」を明確にすることで、 3年生2学期からの志望を貫く

時期の特徴

夏休み前に志望校は設定したが、進学する上で大切にしたい点があいまいだったり、学力の裏付けが乏しかったりすると、9月以降に生徒も教師も弱気になり、志望が揺らぐ。

指導のポイント

合格に向けて秋以降の学習に集中するためには、生徒が「自分にはこの志望がベスト」「この学習を続ければ合格できる」と思える「志望の根拠」を、生徒、教師、保護者で共有する。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 生徒の「譲れない条件」を面談で明確にする

……→ 図1

◎2学期以降、志望校を考える上で大切なのは、その生徒が「何を大切にしているのか」を担当、そして生徒自身が明確に把握することだ。国立大に進学する、地元に残る、特定の学部に進む、少しでも難易度が高い大学に挑戦するなど、志望の条件はさまざま。生徒が考えている譲れない条件を面談で生徒と確認しておくことが、生徒が後悔のない進路を選択し、入試本番までの時間を最大限に活用する原動力となる。志望大名を書かせるだけではなく、むしろその理由をこの時期に明確にしておくことが、残り数か月、最後まで粘るためには欠かせない。

2 多角的な視点から志望の妥当性を確認して後押しする

……→ 図1

◎生徒の志望が妥当なものかを見極めるための視点は学力面と人物適性面に分かれる。学力面では、模試の結果はもちろん、夏休みの学習状況や秋以降の授業態度、ノートや答案の書き方なども、合格可能性を判断し志望の妥当性を裏付けるヒントとなる。人物適性面では、志望学部・学科の研究内容や目指す職業が本人の性格、志向と合っているか、高い目標に向かって最後まで諦めずに努力を続けられるかなどが勘案される。これらの総合判断により、その生徒をよく知る教師が「志望は妥当だ」と太鼓判を押すことが、生徒には大きな後押しとなる。

対教師へのデータ

進路意識や学力から妥当性を判断し、生徒の「志望の根拠」を固めていく

データを用いた指導の流れ

STEP 1

◎面談の中で、教師が生徒に志望大とその理由を聞き、面談シートの上段(図1)に記入する。または生徒自身に記入させる

STEP 2

◎シート(図1)の内容を基に面談を重ね、その生徒が志望大選びで大切にしていることを明確にした上で、現時点の志望大を確認する

STEP 3

◎シート(図1)にあるような学力および人物適性の観点から、生徒の志望大の合格可能性や適性を判断していく

STEP 4

◎生徒の思いと教師の後押しで志望を根拠のあるものにする。保護者とも志望の妥当性を共有し、生徒、保護者、教師が志望を貫く覚悟を持つ

図1 生徒の志望の妥当性を確認する面談シート

年 組 名前

志望大とその理由

①現時点の志望校とその理由

	大学名	学部・学科名	志望理由
第1			
第2			
第3			

②志望校を決める上で譲れない点(例えば、大学名、学部、大学の所在地、難易度など)

上記を生徒自身が記入する場合は、点線で切り離して使用してもよい

志望の妥当性を確認する視点

1. 模試結果 判定、教科の得意不得意などからの妥当性はあるか。ただし、現在返却されている模試結果は夏休み前のものであることに注意

担任としての所見

2. 夏休み、2学期以降の学習状況 夏休みに計画どおりの学習に取り組み、2学期からは新たな学習計画を実行しているか。その成果は今後期待できそうか

担任としての所見

3. 日々の授業態度 授業中の態度、ノートなど、日々の学習への取り組みから、今後も粘り強く、丁寧な学習を続けていくことが出来そうか

担任としての所見

4. 志望とのマッチング 目指している学部・学科、職業などは、本人の性格や志向に適したものか。卒業後も大学で培った力を生かして社会で活躍できそうか

担任としての所見

5. 本人の性格 入試本番まで、易きに流れることなく、高い目標に向かって計画的に学習を続けていくことが出来そうか

担任としての所見



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

**選んだ道は違っても
共に支え合うクラスをつくる**

推薦・AO入試で合格を決めた生徒が、一般入試受験者のために協力できるかどうかは担任にとって大きな課題だ。9月に、推薦・AO入試の志望者を学年で集めて、「きみたちも立派に入試を戦っている」と鼓舞したうえで、「同じように頑張る仲間を最後まで応援することも大切な経験だ」と一般入試受験者への配慮を求める指導を早期に行いたい。

**保護者に志望の妥当性を示し、
最後まで応援してもらう**

子どもの受験勉強を応援しようという気持ちが強い保護者は、模試判定を重視し過ぎる傾向があるようだ。高い目標に向かって努力する生徒に、「志望を変更しては？」と保護者が水を差すケースもある。生徒と教師が確認した学力面、人物適性面での志望の妥当性を保護者にも示すことで、保護者と教師が同じ目標を持つチームとして生徒を支えていきたい。

**生徒を多面的に捉えるには
教師間の連携が不可欠**

学力面、人物適性面から生徒の志望の妥当性を裏付けるには、当然、生徒に対する深い理解が必要だ。それは担任1人の力では難しい場合もあるだろう。特に、模試結果に表れていない生徒の変化をつかむには、各教科担任からの情報が重要だ。1人の生徒について複数の教師が語り合うことで、志望の裏付けが確かになり、教師団のまとまりも強くなる。

目的別データ活用

1 模試結果を踏まえた分析をプラス思考で行う

……→ 図2

◎夏休み前に受けた模試の結果は、8月後半から9月前半に生徒に返却される。この合格判定に生徒は一喜一憂しがちだが、「夏休みの学習の成果とこれからの学習によって、この判定は今後大きく変わっていく」と説明し、生徒の目を未来に向けさせたい。そのために活用できるデータの1つが受験者の分布図だ。人数の分布図を見ると、自分よりも上の判定のゾーンに人数があまりいないことや、あと数点で上の判定になることが分かることもある。合格圏内に近付ける可能性が大いにあることをデータで示し、生徒の意欲につなげたい。

2 この時期に必要な粘り強い学習を先輩から学ぶ

……→ 図3

◎模試データの見方を理解させたら、この時期は粘り強く学習を進めることが大切であることも訴えたい。1冊の問題集をやり抜く、問題集をもう一度繰り返すなど、この時期の学習のキーワードは「粘り」であろう。そこで、合格した先輩の学習内容を紹介し、志望大・学部にかかわらず、この時期は粘りや安定した生活習慣、そして学校の授業が重要であることを知らせる。成果を急ぐ生徒は「別の学習方法を選ぶべきでは」と不安を抱きがちだ。現在の学習計画を進めることで、自分は着実に合格に近づいていることを先輩の例から実感させたい。

対生徒
への
データ

模試データを基に今後を見通し、
今すべき学習に納得感を持たせる

データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎模試の結果から度数分布の見方(図2)を伝え、あと一步で合格可能性が高まることもあることを理解させる	◎その上で、合格のためにはどの程度の得点アップが必要か、どの分野で得点を伸ばせばよいのかを生徒に考えさせる	◎自校の先輩が取り組んだ学習内容を読み、合格した先輩が共通して取り組んでいる内容を確認させる(図3)	◎模試の結果と夏休みの学習状況、先輩の学習内容から、「あと一步」を埋めるために、どんな学習が必要が生徒に考えさせる(図3)

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトをご覧ください。

●2006年10月号「3年生2学期の意識付け」

●2007年10月号「粘り強さを育む3年生2学期の意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

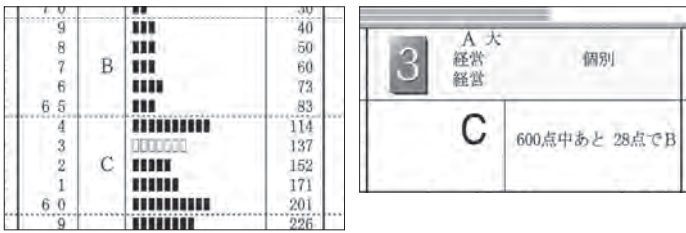
HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導ツール集

ウェブサイトから
ダウンロード!

図2 模試の結果、ここに注目しよう！



度数分布に目を向けよう！

模試の個人成績票には、判定と度数分布が表示されている（左端図）。度数分布を確認することで、「Bに近いC判定」など、より正確な学力位置を把握することができる。また、判定欄には「あと何点で判定アップできるか？」も表示されている（中央図）。模試の配点で算出されているので、次の模試に向けた目標設定を行い、学習を進めよう。

図3 先輩の例から考える「合格のために大切なこと」



	志望大	受験大	合否	志望を貫いた理由・志望を変更した理由	2学期以降に行った学習
A先輩	Y大	Y大	合格	3年生7月に受けた模試の合否判定はD判定。しかし、苦手科目の数学の成績が上向きになり、学習への負担感も減ったこともあり、そのまま志望を貫いた	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の教科書の解き直し ・古文文法を完璧にする ・長文読解に毎日1題取り組み、速読力を高める
B先輩	A大	A大	合格	2年生ではずっとB判定だったが、3年生になるとCまたはD判定に。しかし高配点の数学、英語が好調だったため、理科、地歴での巻き返しに期待した	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、英作文の添削をしてもらう ・理科の教科書の見直し（特にエネルギー） ・歴史の一问一答を仕上げる
C先輩	C大	B大	合格	3年生7月の模試でのC大の合格判定はC。航空工学が学べる大学を志望していたため、成績の上昇に伴い、より施設が充実しているB大に志望変更した	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語の定着（単語帳を完璧に） ・得意の数学は過去問を多く解く ・教科書で古文文法を確認する
D先輩	D大	D大	合格	夏休み明けから得意の英数国は2次対策の問題集に取り組んだ。秋までの判定はCやD判定だったが、理科と地歴は基礎固めを重視して合格に至った。	<ul style="list-style-type: none"> ・英数国3教科の2次対策 ・理科、地歴のセンター試験対策 ・長文読解に毎日1題取り組み、速読力を高める

2学期以降に行う具体的な学習



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ（高校向け）> 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

地道に努力する生徒への手立てを後回しにしない

教師の目は、極端に成績が低下したり、唐突に志望校を変更したりする生徒、さらに安易に推薦・AO入試に走る生徒に向きがちだ。しかし、クラスの大半を占める、地道に努力する生徒も入試に対して不安を抱えていることを忘れてはならない。悩みや不安を表に出さない生徒ほど、「何かあったら相談しにおいて」など、普段から細やかな声掛けを行い、「見守られている」ことを感じさせたい。

夏休みの学習状況を踏まえ秋からの計画を立てる

この時期に返却される模試の結果は、あくまで「夏休み前」の状況を表したものだ。したがって、模試結果を見る時もそのことを十分に意識し、「夏休みはどう勉強したか」「これから取り組む学習で、この結果を今後どう変化させられるか」という視点でチェックし、学習計画立案に生かすように生徒に話すようにする。前を向き、先を見通すための材料であることを教えたい。

2年生と3年生の模試の違いを確認する

3年生になって模試の成績が下降し、自信を失う生徒は少なくない。これは、模試の母集団の質が変わったために全体の中での順位が下がってしまったからであり、これからが巻き返しの時期であることを教師は理解しているのだが、当の生徒はそうした事実を忘れてしまうことが多い。夏までに受けた模試については、判定や偏差値に過度に注目せず、苦手分野の分析などに活用させたい。